

2022年度版 環境報告書

Utsunomiya University Environmental Report 2022



この報告書は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（環境配慮促進法）」（平成16年6月2日法律第77号）第9条の規定に基づき、作成し、公表するものです。

■対象組織 国立大学法人 宇都宮大学

■対象地区 峰町キャンパス、陽東キャンパス、附属学校、附属農場、附属演習林、国際交流会館、学生寮

■対象期間 令和3年4月～令和4年3月

CONTENTS

—目次—

1. 環境方針	1
2. 宇都宮大学について	
2-1 宇都宮大学の概要	2
2-2 宇都宮大学の組織	3
3. 地域貢献	
3-1 地域貢献事業	4
3-2 公開講座等	4
4. 環境パフォーマンス	
4-1 エネルギー消費量	5
4-2 ゴミ・紙・グリーン購入等	12
4-3 化学物質	14
4-4 環境配慮活動の取組事例	15
4-5 環境関連の法規制の遵守状況	16
5. 環境報告ガイドライン（2012年版）との準拠状況	17



各ページにSDGsの17の目標のどれと密接に関係しているのかを示すためにアイコンを表示しています。

1. 環境方針

基本理念

地球温暖化をはじめとして、資源エネルギーや生物多様性など地球環境保全の問題は、人類が直面している大きな課題となっています。自然と豊かな環境の保全を通じて一人一人が幸せを実感できる生活をつくりあげ、次世代に継承させる社会の構築がいま求められています。

本学は、地域の「知」の拠点として、また、広く社会に貢献すべく開かれた大学として、社会の要請に応じた人材の養成はもとより、持続可能な社会の形成を促す教育研究や環境整備等を通じて、環境保全に努めます。

基本方針

本学は、基本理念を具体的に実現するために、すべての構成員が法令及び学内規則等を遵守し、以下の取り組みとともに、継続的な改善に努めます。

① 持続可能な社会形成を促す教育研究の推進

低炭素社会で求められる環境問題に関するグローバルな視野と実践力を養うための教育を進めます。また、持続可能な社会の形成を促す研究を推進し、その成果を社会に還元します。さらに、学生に対する環境問題への意識啓発を進めるため、環境改善学生サポーターなど学生参加型の学生支援を積極的に進めます。

② 地域の環境保全

環境に関する地域の要請を踏まえた産学連携等の推進により、地域社会に貢献します。

③ 環境負荷の低減

地球温暖化対策の推進や、省エネルギー対策に向けて、温室効果ガス排出抑制等の環境配慮行動を積極的に推進します。また、省資源、資源の循環利用、グリーン購入の推進、化学物質管理の徹底等、大学運営における循環型社会構築への配慮に努めます。

④ 環境情報の発信

環境方針、環境報告書、環境改善活動等の自己点検・評価等の環境関連情報を、大学ホームページ等を通じて、学内の教職員・学生や一般社会へ積極的に公開します。

2. 宇都宮大学について

2-1 宇都宮大学の概要

■宇都宮大学の理念と方針

本学は、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献することを理念とし、広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践するため、次の基本的な方針を定めています。

- 1.幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成します。
- 2.持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進します。
- 3.地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開します。

■構成人員（令和4年5月1日現在）

学生等数 6,193人

学部学生 3,977人、大学院生 945人、連合農学研究科 28人

附属学校 小学校 611人、中学校 431人、特別支援学校 51人、幼稚園 150人

役職員数 618人

学長・理事 5人、監事 2人、大学教員 327人、附属学校教員 82人、事務職員・技術職員 202人

■土地面積

8,917,534 m²

■建物床面積

170,814 m²

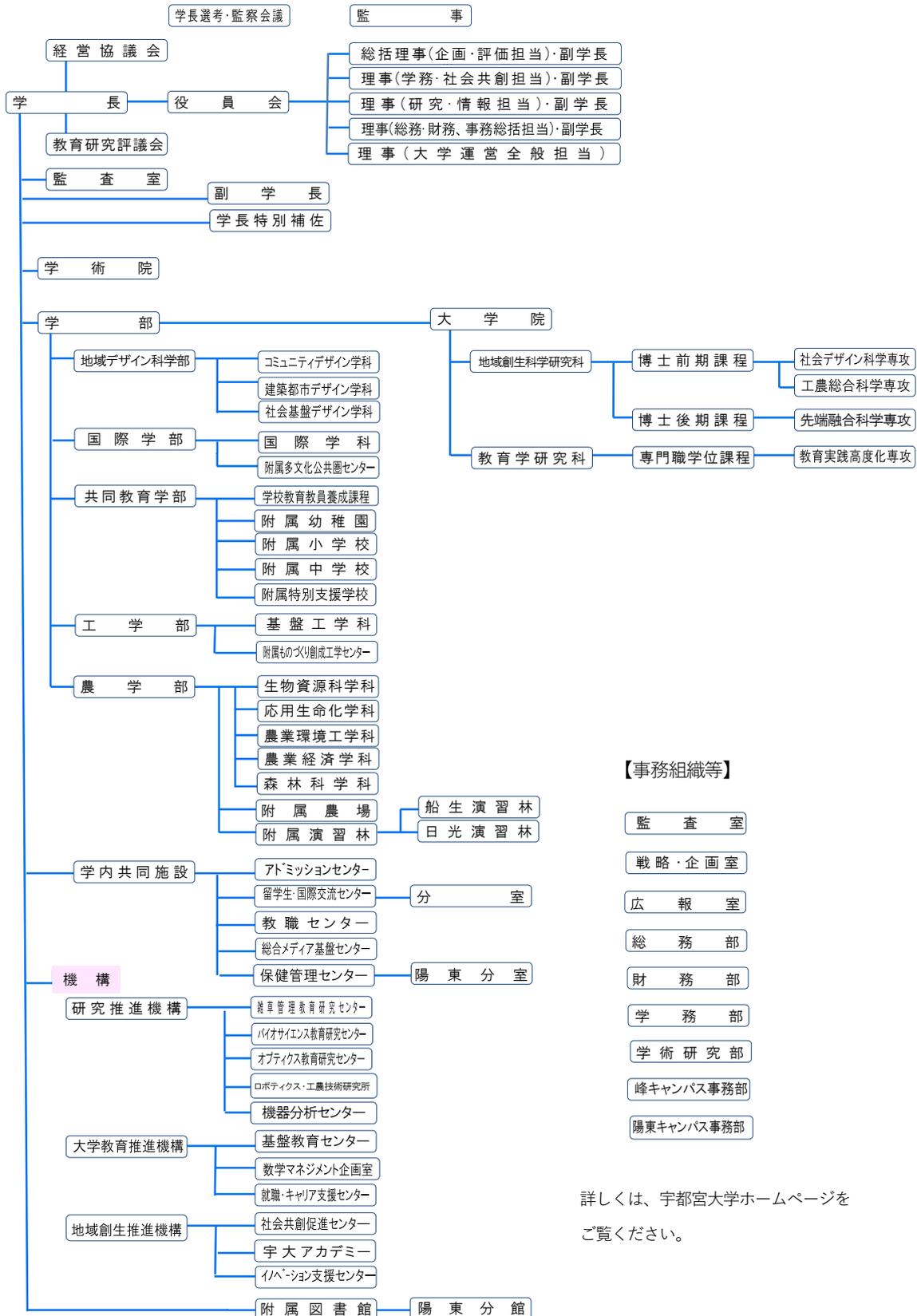
■令和3年度決算額

収入金 11,248百万円

支出金 10,857百万円

2-2 宇都宮大学の組織

令和4年4月1日現在





3. 地域貢献

3-1 地域貢献事業

本学は、「地域に学び、地域に返す、地域と大学の支え合い」をモットーとして、地域連携活動を推進しています。平成18年度に初めて行われた日本経済新聞社の全国国公立大学地域貢献度調査において総合第1位にランキングされて以来、その後も常に上位にランキングしており、令和3年度に行われた調査では、全国総合第12位にランキングされました。

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症対策により、地域貢献事業のうち、「環境」を扱った事業の開催はございません。



3-2 公開講座等

令和3年度につきましては、新型コロナウイルス感染症対策により、公開講座等のうち、「環境」をテーマにした講座等の開催はございません。



4. 環境パフォーマンス

4-1 エネルギー消費量

(1) エネルギー消費量の全体像

本学におけるエネルギー源別の使用量は下表のとおりです。令和3年度のエネルギー消費量の合計は、135,912 [GJ] です。その内訳は、電力消費量73%、ガス消費量26%、その他1%となっております。令和元年度に灯油をエネルギー源とした非高効率型の空調設備を電気式の高効率型空調設備へ更新したため、更新後は灯油の消費量（構成比率）が大きく減っております。

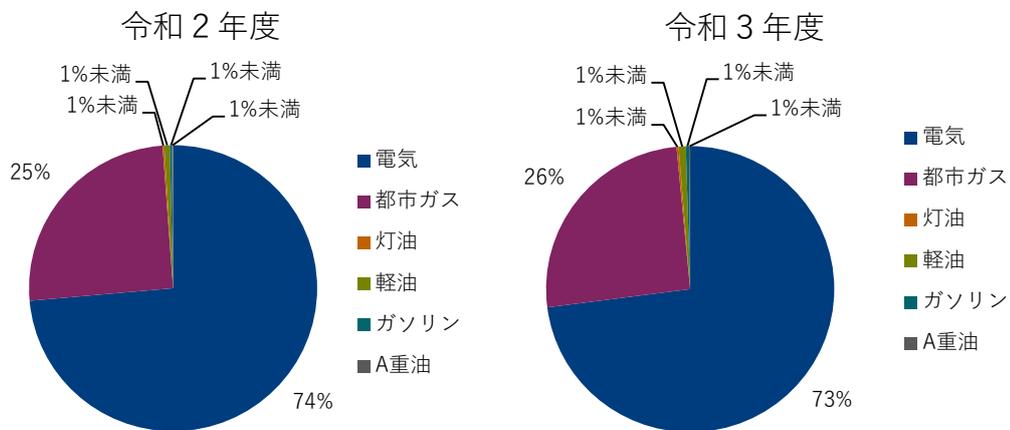
令和3年度のエネルギー消費量は前年度と比較して約7%増加となりました。要因としましては、令和2年度は授業をオンライン方式にて実施しましたが、令和3年度は授業をオンライン方式と対面方式を併用して実施したことにより設備の稼働が増加したためと考察されます。これからも増減要因、問題点等を把握したうえで、必要な方策を講じ、改善に努めていきます。

エネルギー消費量（エネルギー源別） 下段は構成比率

エネルギーの種類 熱量換算値	電気 [GJ] 9.97MJ/kWh	都市ガス [GJ] 45MJ/m ³	灯油 [GJ] 36.7GJ/kL	軽油 [GJ] 37.7J/kL	ガソリン [GJ] 34.6GJ/kL	A重油 [GJ] 39.1GJ/kL	計 [GJ]
令和3年度	99,166 73%	34,687 26%	320 1%未満	1,086 1%未満	497 1%未満	156 1%未満	135,912 100%
令和2年度	93,287 74%	31,980 25%	249 1%未満	781 1%未満	298 1%未満	156 1%未満	126,751 100%

※ GJ …… ギガジュール。ギガは10⁹倍。

エネルギー源ごとに使用量の単位が異なるので、エネルギー消費量として比較・集計するために用いられます。使用量に熱量換算値を乗じて算出します。



エネルギー源別消費割合

エネルギー消費量を算出する根拠となったエネルギー源別の使用量(購入量)は以下のとおりです。

エネルギー使用量 (エネルギー源別)

	電気 〔kWh〕	都市ガス 〔Nm ³ 〕	灯油 〔ℓ〕	軽油 〔ℓ〕	ガソリン 〔ℓ〕	A重油 〔ℓ〕
令和3年度	9,946,484	770,815	8,706	28,809	14,354	4,000
令和2年度	9,356,745	710,662	6,783	20,724	8,599	4,000

(2) CO₂排出量

前項で示したとおり、エネルギー消費量の増加及び電気のCO₂排出係数増加に伴い、CO₂排出量は前年度比で約13%の増加となりました。

CO₂排出量 (エネルギー源別)

エネルギーの種類	電気 〔t-CO ₂ 〕	都市ガス 〔t-CO ₂ 〕	灯油 〔t-CO ₂ 〕	軽油 〔t-CO ₂ 〕	ガソリン 〔t-CO ₂ 〕	A重油 〔t-CO ₂ 〕	計 〔t-CO ₂ 〕
CO ₂ 排出係数	R3: 0.474 R2: 0.442 tCO ₂ /千kWh	2.19 tCO ₂ /千Nm ³	2.51 tCO ₂ /kL	2.62 tCO ₂ /kL	2.32 tCO ₂ /kL	2.71 tCO ₂ /kL	
令和3年度	4,715	1,688	22	75	33	11	6,544
令和2年度	4,136	1,556	17	54	20	11	5,794

※ t-CO₂ …… エネルギーの消費に伴い、排出される CO₂[t]の量。エネルギー使用量に CO₂排出係数を乗じて算出します。

1人あたりのエネルギー消費量及びCO₂排出量

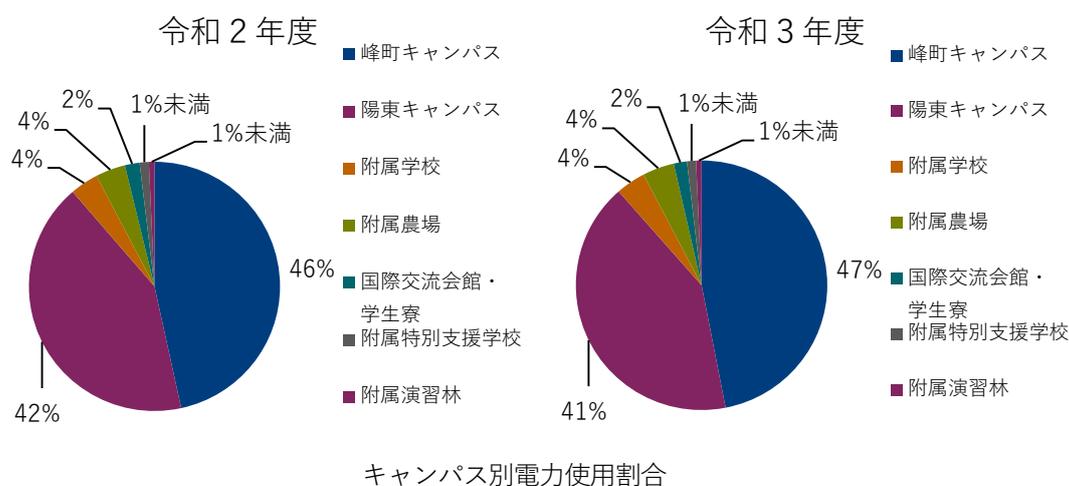
	構成員数〔人〕	エネルギー消費量 〔GJ/人〕	CO ₂ 排出量 〔t-CO ₂ /人〕
令和3年度	6,811	19.95	0.96
令和2年度	6,839	18.53	0.85

(3) 電力使用量

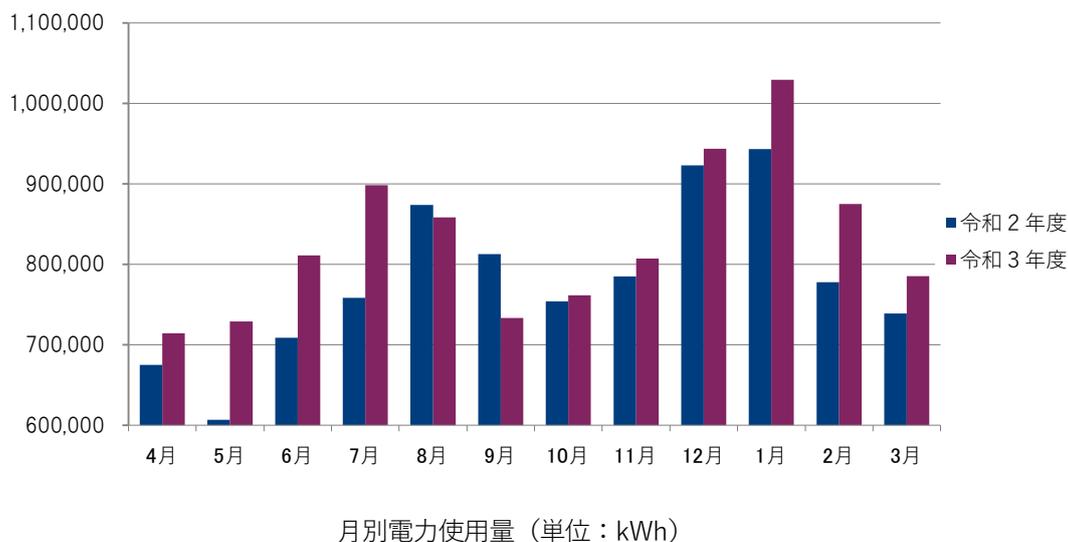
前々項で示しましたとおり、全エネルギー使用量のうち73%が電力によるものです。このことから、特に電力使用量の削減が重要となります。

令和3年度は、対面授業を再開（オンライン方式と対面方式を併用）したことによる影響で、照明や空調設備（EHP）の稼働が増えたため、前年度に比べて約7%増加となりました。

また、峰町キャンパス及び陽東キャンパスの電力使用量の合計は、大学全体の約9割を占めていますので、電力使用量の多いこの2つのキャンパスを中心に使用状況等を調査し、節電対策を講じていきます。



月ごとの電力使用量を比較すると、空調機の稼働が多くなる夏季（7月）と冬季（1月）にピークがあり、省エネルギー対策をより効果的に進める必要があることが分かります。建物新築や大規模改修時には、高効率型機器を積極的に導入するとともに、空調機使用時の室温管理の徹底を行いエネルギーの削減を図っています。



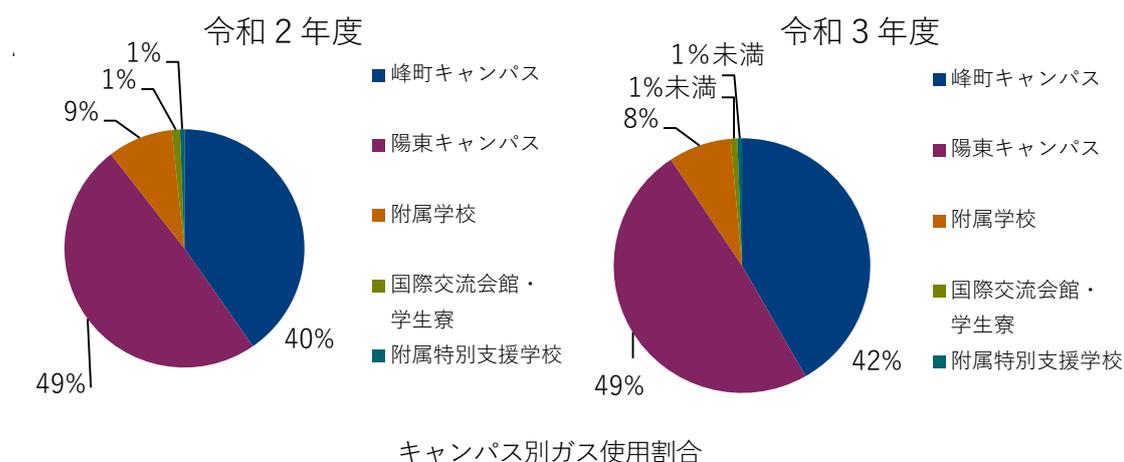
キャンパス別・月別電力使用量 上段：令和3年度、下段：令和2年度

名称	4月 〔kWh〕	5月 〔kWh〕	6月 〔kWh〕	7月 〔kWh〕	8月 〔kWh〕	9月 〔kWh〕	
峰町 キャンパス	340,929 332,975	336,315 285,309	372,545 319,358	423,232 348,976	409,354 403,562	342,244 372,585	
陽東 キャンパス	296,299 274,550	300,278 249,907	327,456 301,952	370,145 327,300	338,078 360,128	302,429 340,466	
附属学校 (松原)	26,858 16,037	35,316 22,674	43,432 34,293	28,440 29,536	31,508 35,722	31,582 32,524	
附属学校 (宝木)	6,392 4,421	7,377 4,661	9,154 8,124	10,514 8,837	9,621 10,592	7,966 11,313	
国際交流会館 ・学生寮	10,564 16,503	9,904 12,718	10,717 12,902	11,341 12,796	14,542 16,471	11,208 15,558	
附属農場	28,162 24,415	34,807 26,799	43,294 27,706	49,732 26,251	50,654 42,888	33,501 35,676	
附属演習林 (船生)	2,805 2,636	2,920 2,375	2,761 2,500	3,024 2,665	2,951 2,826	2,768 2,659	
研修施設 (戦場ヶ原)	2,097 3,506	1,918 2,310	1,823 1,776	1,927 1,865	1,801 1,726	1,776 1,705	
計	714,106 675,043	728,835 606,753	811,182 708,611	898,355 758,226	858,509 873,915	733,474 812,486	
名称	10月 〔kWh〕	11月 〔kWh〕	12月 〔kWh〕	1月 〔kWh〕	2月 〔kWh〕	3月 〔kWh〕	年間合計 〔kWh〕
峰町 キャンパス	357,447 353,166	382,734 362,355	452,356 434,123	479,256 430,550	397,878 359,376	374,450 355,855	4,668,740 4,358,190
陽東 キャンパス	325,934 325,315	338,263 337,668	401,434 400,176	434,093 402,676	370,382 318,192	332,371 303,235	4,137,162 3,941,565
附属学校 (松原)	29,632 27,134	33,614 32,949	24,317 22,583	43,193 36,548	32,228 30,185	21,103 22,327	381,223 342,512
附属学校 (宝木)	7,311 7,127	8,012 7,812	11,553 12,386	13,913 13,858	14,055 12,437	10,240 9,278	116,108 110,846
国際交流会館 ・学生寮	10,114 10,370	11,829 11,983	15,937 15,299	22,763 20,222	24,710 19,815	15,366 13,272	168,995 177,909
附属農場	25,823 25,741	26,385 26,303	31,014 31,436	28,242 32,324	28,681 31,188	24,848 28,462	405,143 359,189
附属演習林 (船生)	3,017 2,790	3,025 2,809	3,201 2,978	3,316 3,052	2,950 2,678	3,149 2,930	35,887 32,898
研修施設 (戦場ヶ原)	2,333 2,175	3,297 3,096	3,996 3,891	4,579 4,208	3,957 3,697	3,722 3,681	33,226 33,636
計	761,611 753,818	807,159 784,975	943,808 922,872	1,029,355 943,438	874,841 777,568	785,249 739,040	9,946,484 9,356,745

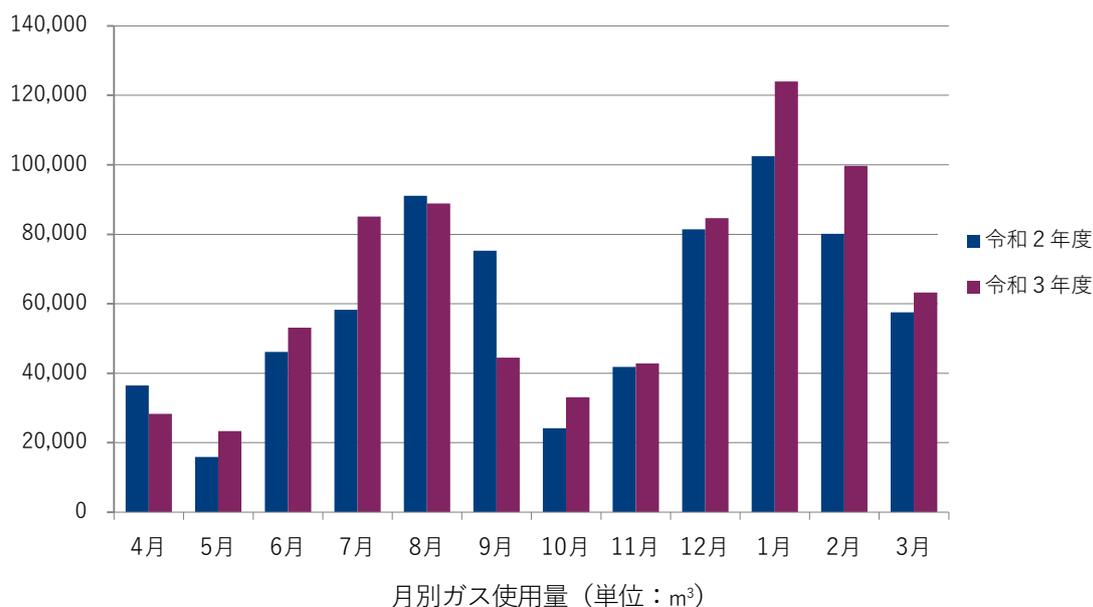
(4) ガス使用量

ガスの使用用途の殆どはガスを熱源とする空調設備（GHP）です。GHPは運転時の消費電力が少なく夏季と冬季に発生する電力ピークの削減に効果的なため、建物新築時や大型改修工事の際は、経済性を考慮しながら採用しています。

令和3年度のガス使用量は、対面授業を再開（オンライン方式と対面方式を併用）したことによる影響で、空調設備（GHP）の稼働が増えたため、前年度に比べて約9%増加となりました。



月ごとのガス使用量を比較すると、電力使用量と同じように空調機の稼働が多くなる夏季と冬季にピークがあります。なお、空調機使用時の室温管理の徹底を行いエネルギーの削減を図っております。



キャンパス別・月別ガス使用量 上段：令和3年度、下段：令和2年度

名称	4月 (m ³)	5月 (m ³)	6月 (m ³)	7月 (m ³)	8月 (m ³)	9月 (m ³)
峰町 キャンパス	9,309 15,608	4,548 3,615	17,377 14,042	33,314 19,842	35,678 36,827	14,557 27,568
陽東 キャンパス	16,319 18,063	16,820 11,275	31,562 26,800	45,756 32,330	47,769 49,380	26,160 37,427
附属学校 (松原)	1,798 1,933	1,110 295	3,330 4,402	5,299 5,223	4,903 4,261	3,362 9,581
附属学校 (宝木)	249 7	226 22	304 296	226 239	183 187	219 300
国際交流会館 ・学生寮	582 846	645 726	556 572	525 654	331 443	222 401
計	28,257 36,457	23,349 15,933	53,129 46,112	85,120 58,288	88,864 91,098	44,520 75,277

名称	10月 (m ³)	11月 (m ³)	12月 (m ³)	1月 (m ³)	2月 (m ³)	3月 (m ³)	年間合計 (m ³)
峰町 キャンパス	11,313 8,042	18,094 18,318	42,035 37,783	59,167 45,358	46,157 33,780	30,188 25,907	321,737 286,690
陽東 キャンパス	18,993 14,028	20,664 19,031	34,167 34,506	51,965 45,437	40,235 35,520	26,622 25,670	377,032 349,467
附属学校 (松原)	2,134 1,209	3,095 3,522	7,167 7,894	11,423 10,090	12,110 9,184	5,293 4,844	61,024 62,438
附属学校 (宝木)	255 231	444 331	606 488	617 755	630 904	507 454	4,466 4,214
国際交流会館 ・学生寮	380 627	572 632	663 730	855 812	634 717	591 693	6,556 7,853
計	33,075 24,137	42,869 41,834	84,638 81,401	124,027 102,452	99,766 80,105	63,201 57,568	770,815 710,662

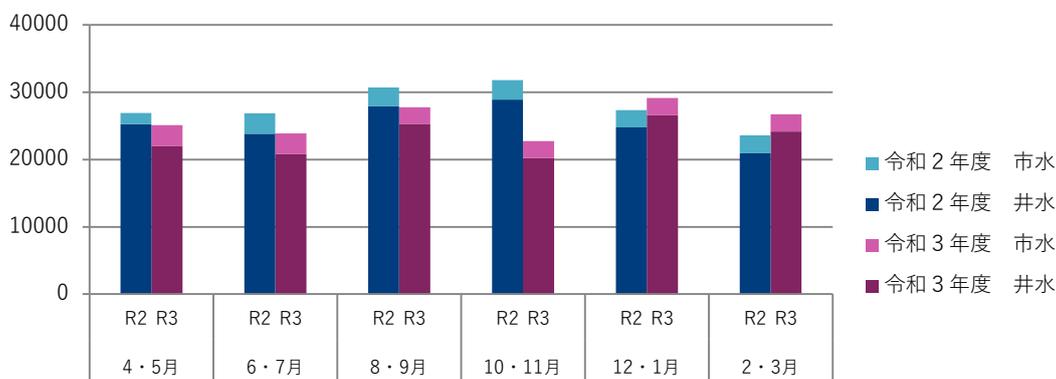
(5) 水道使用量

峰町キャンパス、陽東キャンパス、附属農場及び附属演習林（日光）では、井戸水を使用しています。これら以外の地区（附属学校、附属演習林（船生））は常時市水を使用しています。また、附属学校のトイレは、井戸水を利用することで、水資源の有効利用を図っています。

令和3年度の上水使用量は前年度と比較して約7%減少しました。陽東キャンパスは、さく井（井戸）設備等の整備を行ったことにより、井戸水を常時利用できるようになったため、市水使用量の大幅な削減ができております。

上水隔月別使用量（単位：m³）

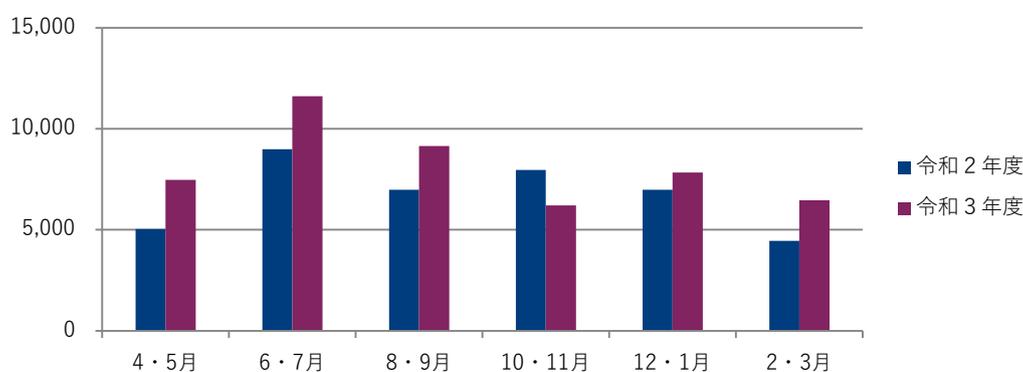
	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	計
令和3年度	25,125	23,854	27,761	22,730	29,157	26,699	155,326
令和2年度	26,910	26,855	30,694	31,816	27,337	23,573	167,185



上水隔月別使用量（単位：m³）

下水隔月別排出量（単位：m³）

	4・5月	6・7月	8・9月	10・11月	12・1月	2・3月	計
令和3年度	7,479	11,610	9,145	6,212	7,833	6,468	48,747
令和2年度	5,038	8,982	6,974	7,960	6,984	4,452	40,390



下水隔月別排出量（単位：m³）

4-2 ゴミ・紙・グリーン購入等

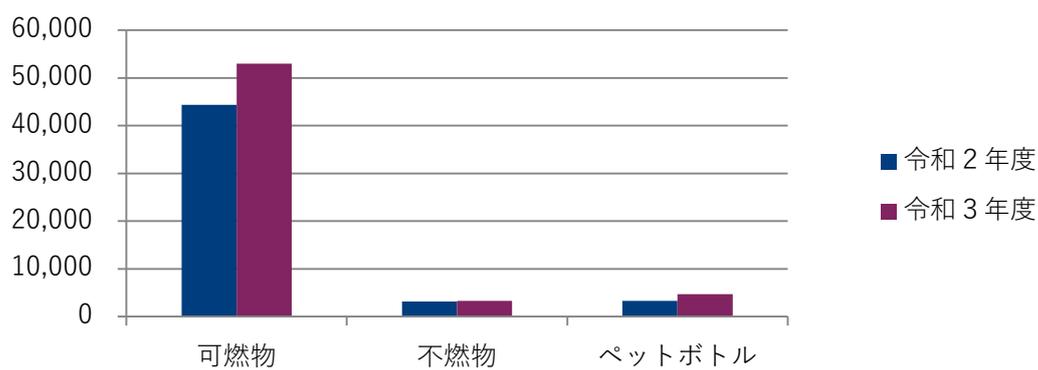
(1) ゴミ収集状況

平成27年度より可燃物として焼却処分をしていましたプラスチック製の弁当容器を分別回収し、廃プラスチックとして処分をしています。令和3年度のゴミ収集量は、前年度と比較して約20%増加しました。

これからも、学内において備品等のリユース（再使用）活動等を積極的に行い、ゴミの排出量の削減を図っていきます。

可燃物、不燃物及びペットボトルの収集量（単位：kg）

	可燃物	不燃物	ペットボトル	計
令和3年度	52,994	3,281	4,682	60,957
令和2年度	44,333	3,166	3,289	50,788



可燃物、不燃物及びペットボトルの収集量（単位：kg）

なお、行政の指定区分に応じて、各建物の階ごとに種類が明示されたゴミ入れ等を設置し、分別回収を行っています。



ゴミの分別箱設置状況

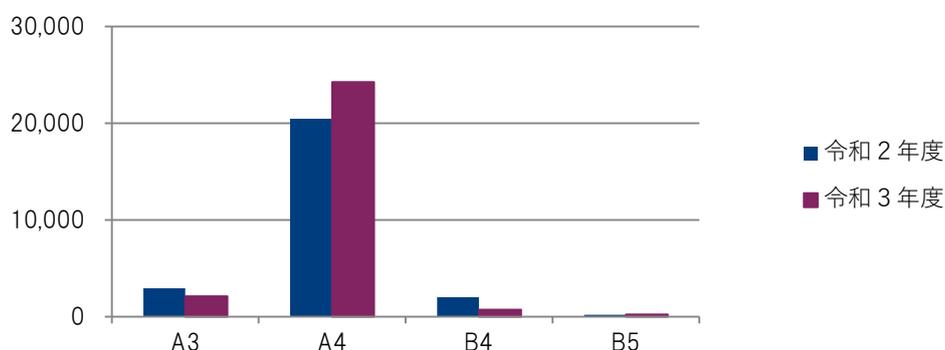
(2) 複写用紙の使用量

令和3年度の複写用紙の購入量は前年度と比較して約7%減少しました。

大学という特性上、複写用紙の購入量が他の事業所等に比べ多くなっています。これを大きく減らすことは容易なことではありませんが、両面コピーや裏面利用及び会議資料の電子化等により、複写用紙の使用量の削減を図っていきます。

複写用紙の購入量（単位：kg）

	A3	A4	B4	B5	計
令和3年度	2,100	24,260	705	210	27,275
令和2年度	2,928	20,470	2,010	195	25,603



複写用紙の購入量（単位：kg）

(3) グリーン購入等

グリーン購入法（国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律）に基づいて、本学では環境に配慮した製品を調達するよう努めています。令和元年度以降の調達においても教育研究上の必要性等を考慮しつつ引き続き環境物品等の調達の推進を図り、可能な限り環境への負荷の少ない物品等の調達に努めていきます。

①物品等の調達

調達方針において、調達総量に対する基準を満足する物品等の調達量の割合により目標設定を行う品目については、100%を目標とし、全ての物品等の調達実績で目標を達成しました。

②公共工事

タイル及びビニール系床材などにおいて基準を満足する適用品を100%調達しました。また、工事に使用する建設機械（排出ガス対策型建設機械）についても基準を満足する機械を使用しました。

本学におけるグリーン購入等の詳細については、ホームページにて公表しています。

<https://www.utsunomiya-u.ac.jp/disclosure/competitive-bidding.php>

(HOME→情報公開→国立大学法人宇都宮大学調達情報 [競争入札情報])

4-3 化学物質

(1) 化学物質の管理

本学では、教育研究の必要上様々な化学物質を取り扱っています。P R T R法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）などの関係法令や学内規程に則り、適切な使用、保管、廃棄等管理を行っております。

なお、毒物・劇物については、密栓した容器に入れ、内容物を明記して施錠した薬品棚に管理し、その出納を「毒物等受払簿」に記録するとともに、保管状況等について定期的に検査しています。

(2) 廃液処理状況

本学の教育研究活動で排出される実験廃液は、各キャンパスで一斉に回収（峰町キャンパス：年1回、陽東キャンパス：年2回）し、業者に処分を委託しています。

一般産業廃棄物排出量（単位：kg）

	汚泥	廃アルカリ	廃酸	廃油	計
令和3年度	385	715	591	975	2,666
令和2年度	421	725	172	281	1,599

特別管理産業廃棄物排出量（単位：kg）

	汚泥 (有害)	引火性廃油 (有害)	強アルカリ (有害)	廃アルカリ (有害)	廃酸 (有害)	強酸 (有害)	計
令和3年度	0	2,910	100	82	580	0	3,672
令和2年度	22	2,503	98	25	924	0	3,572

(3) PCB廃棄物の取り扱い

PCB廃棄物については、「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理に関する特別措置法」に基づき、適切な対応をしています。

保管していましたPCB廃棄物は、国の認可を得た処理業者に委託をして処理を行うことで、学内で保管しておりました全てのPCB廃棄物の処理が完了しております。

4-4 環境配慮活動の取組事例

(1) 施設設備による省エネルギー対策

令和3年度においては、陽東キャンパスにおいてセキスイハイムさくら寮（女子学生寮）を新築した際に省エネルギー対策と地球温暖化ガス（CO₂）排出削減の取り組みを実施しました。

下記は取り組みの一例です。



セキスイハイムさくら寮

① 照明器具による省エネルギー対策

高効率型（LED）の採用により、蛍光管型に比べて約50%省エネになります。

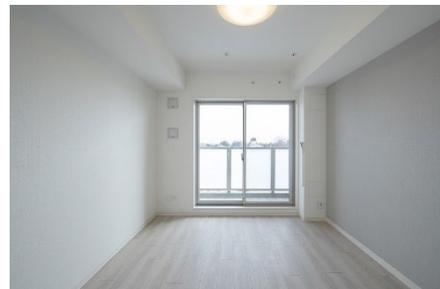
高効率型（LED）照明器具の採用及び場所や用途に応じて人感センサーや昼光制御センサーを用いることにより、無駄な電力の使用を無くすことで、消費電力の削減を図っています。



エントランス

② 高効率型空調機による省エネルギー対策

高効率型を採用することにより、非高効率型に比べて約30%省エネになります。



寮室（居室）

③ 外灯による省エネルギー対策

高効率型（LED）外灯を採用することで、水銀灯と比べて約70%省エネになります。また、LED外灯は、水銀（ランプ）を使用しませんので、環境保護にも役立ちます。

※一般照明用の高圧水銀灯については、「水銀に関する水俣条約」により水銀含有量に関係なく、製造、輸出又は輸入が2021年から禁止となります。



外灯

2) 省エネルギーマニュアルの作成

冷暖房によるエネルギー使用量が増加する夏季・冬季に、より一層の省エネルギー活動が積極的に取り組めるように、分かりやすく省エネのポイントをまとめた、省エネルギーマニュアル（2021 夏、2021 冬）を作成しました。また、学外の方が貸付で教室等を利用する際においても、簡単に実践できるように、学外者向けの省エネルギーマニュアルについても作成しました。



省エネマニュアル
(夏) 表紙



省エネマニュアル
(冬) 表紙



省エネマニュアル
貸出施設編

4-5 環境関連の法規制の遵守状況

本学に適用される環境関連の法規制は、主として下記に示すとおりです。平成30年度においても、これらの法規制に関する訴訟や料金が科せられた事例はありません。

①公害関連法規制

大気汚染防止法、水質汚濁防止法、下水道法、土壌汚染対策法など。

②エネルギー関連法規制

エネルギーの使用の合理化に関する法律、地球温暖化対策の推進に関する法律など。

③廃棄物関連法規制

廃棄物の処理及び清掃に関する法律、PCB特別措置法など。

④化学物質関連法規制

PRT法、高圧ガス保安法、毒物及び劇物取締法など。

5. 環境報告ガイドライン(2012年版)との準拠状況

環境省が作成した「環境報告ガイドライン (2012年版)」には、「環境報告として記載することが望ましいとする項目」が提示されています。以下に環境報告ガイドラインの項目に該当又は関連する、本報告書の記載事項を示します。

環境報告ガイドラインの項目	本環境報告書の記載事項	該当ページ
【1】 基本的項目 : Basic Information		
1. 報告にあたっての基本的要件 (1) 対象組織の範囲・対象期間 (2) 対象範囲の捕捉率と対象期間の差異 (3) 報告方針 (4) 公表媒体の方針等	対象組織、対象地区、対象期間	目次
2. 経営責任者の緒言	—	—
3. 環境報告書の概要 (1) 環境配慮経営等の概要 (2) K P I の時系列一覧 (3) 個別の環境課題に関する対応総括	2-1 宇都宮大学の概要 2-2 宇都宮大学の組織 — — 1. 環境方針	2 3 — — 1
4. マテリアルバランス	4-1 エネルギー消費量 4-2 ゴミ・紙・グリーン購入等 4-3 化学物質	5~11 12~13 14
【2】 「環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況」を表す情報・指標 : Management Performance Indicators		
1. 環境配慮の取組方針、ビジョン及び事業戦略等 (1) 環境配慮の取組方針 (2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	1. 環境方針	1
2. 組織体制及びガバナンスの状況 (1) 環境配慮経営の組織体制等 (2) 環境リスクマネジメント体制 (3) 環境に関する規制等の遵守状況	— 4-5 環境関連の法規制の遵守状況	— 16
3. ステークホルダーへの対応の状況 (1) ステークホルダーへの対応 (2) 環境に関する社会貢献活動等	— 3. 地域貢献	— 4
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況 (1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等 (2) グリーン購入・調達 (3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等 (4) 環境関連の新技術・研究開発 (5) 環境に配慮した輸送 (6) 環境に配慮した資源・不動産開発/投資等 (7) 環境に配慮した廃棄物処理/リサイクル	— 4-2 (3) グリーン購入等 — — — — —	— 13 — — — — —

環境報告ガイドラインの項目	本環境報告書の記載事項	該当ページ
【3】 「事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況」を表す情報・指標：Operational Performance Indicators		
1. 資源・エネルギーの投入状況		
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	4-1 エネルギー消費量	5~10
(2) 総物質投入量及びその低減対策	—	—
(3) 水資源投入量及びその低減対策	4-1 (5) 水道使用量	11
2. 資源等の循環的利用の状況（事業エリア内）	—	—
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況		
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	—	—
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	4-1 (2) CO ₂ 排出量	6
(3) 総排出量及びその低減対策	4-1 (5) 水道使用量	11
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	—	—
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	4-3 化学物質	14
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	4-2 (1) ゴミ収集状況	12
	4-3 (2) 廃液処理状況	14
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	—	—
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	—	—
【4】 「環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況」を表す情報・指標：Eco-Efficiency Indicators		
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	—	—
(1) 事業者における経済的側面の状況	—	—
(2) 社会における経済的側面の状況	—	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	3. 地域貢献	4
【5】 その他の記載事項等：Social Performance Indicators		
1. 後発事象等	—	—
2. 環境情報の第三者審査等	—	—



宇都宮大学オリジナルキャラクター「宇～太」

宇都宮大学 2022年度版 環境報告書

発行年月 令和4年(2022年)9月

問い合わせ先 国立大学法人宇都宮大学 財務部施設課

TEL (028)649-5065 FAX (028)649-5075

Eメール sisetuka@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

大学ホームページ <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/>